

## 蔓 茎 類 の 挿 木 試 験 ( I )

— 秋 挿 試 験 —

福岡県林業試験場 小 河 誠 司  
 中 島 康 博  
 蓮 尾 久 光  
 萩 原 幸 弘  
 主 計 三 平

この試験は、林道急崖の早期緑化を目的としたものである。本年は、電熱温床を主体に挿木を行ったので、その結果を報告する。

### 試験方法

挿床：(a)九州電力KK佐賀電化試験場ミストハウス内電熱温床（砂：ミスト散水）(b)同上ビニールハウス内電熱温床（砂：適宜散水）(c)当场ガラス室内簡易電熱温床（砂、赤土、ピート：自動散水装置付）(d)当场屋外簡易電熱温床（赤土+砂：適宜散水、レンガ積で上部タキロン覆）(e)当场苗畑にビニール二重トンネルを施した挿床（赤土+砂：適宜散水）

挿穂：発根処理としてインドールらく酸 100ppm液 24時間浸漬と水24時間浸漬を行った。挿木時期及び温床の温度：九電分は10月20、21日挿付、温度は19°±1℃、当场分は、10月27日挿付、温度は20°±2℃。

試験区：3回反復の乱塊法で行った。

調査方法：調査は、根が良くでている、根が出ている、カルスのみ、カルスもないが穂は生きている、枯死の5段階に分け、九電分は11月30日と12月21日に、当场分は、1973年3月7日に行った。

### 試験結果

結果は表一の通りである。表中、ニシキツタは園芸品種名で学名は明らかでない。表から、枯死率の低い割に発根率の悪いツタは、落葉性植物の性質によるものではないかと思う。また、表にはないが、ヤブガラシは、全滅した。これも、つる性の多年草ではあるが、冬場地上部が枯れるところから来ているのではないかと思う。それから、イタビカズラ類の発根は悪く、根も細く、もろい。挿床としては、赤土が安定してい

る様である。

秋挿試験結果全般から見て、蔓茎類の発根は予想以上で、緊急の場合には実用化出来そうである。

参考までに当場内ガラス室及び屋外で行なった春挿試験の中間調査結果を表一2に表わした。

表一 秋挿し試験結果

樹 種	挿 床	(注) 処 理		水 処 理		
		発根率	枯死率	発根率	枯死率	
ツ タ	a	37	14	<u>87</u>	4	
	b	15	14	76	13	
	c { 砂 赤土 ピート	砂	14	19	31	22
		赤土	48	5	65	22
		ピート	9	25	17	49
		d	24	24	42	26
e	25	8	75	7		
テイカカズラ (小)	a	57	39	50	46	
	b	27	67	36	63	
	c { 砂 赤土 ピート	砂	60	35	<u>66</u>	31
		赤土	61	28	53	56
		ピート	46	37	45	54
		d	47	22	42	48
e	65	9	67	13		
ヒメイタビ	a	2	88	16	79	
	b	2	96	0	100	
	c { 砂 赤土 ピート	砂	<u>22</u>	29	5	46
		赤土	4	53	13	38
		ピート	0	33	0	23
		d	3	71	5	42
e	6	31	8	33		

ツルニチリンソウ	c	砂	100	0	92	8
		赤土	90	7	96	1
		ピート	70	20	87	9
		d	91	5	76	22
		e	95	2	98	2
サネカズラ		d	81	19	78	22
		e	71	29	76	24
キダチニンドウ	c	砂			100	0
		赤土			97	3
ツタウルシ	c	赤土			49	52
フユツタ	c	a	36	64	55	45
		b	24	72	22	76
		砂	69	18	69	31
		赤土	36	59	74	26
		ピート	27	63	23	73
	c	d	50	48	77	21
		e	31	67	28	72
		a	21	64	24	72
		b	4	92	15	83
		砂	48	49	48	52
イタビカズラ	c	赤土	29	65	36	64
		ピート	34	60	31	54
		d	25	40	25	54
		e	37	56	30	67
		a	43	16	39	39
オオイタビ	c	b	36	11	21	78
		砂	18	21	16	62
		赤土	19	36	8	81
		ピート	11	21	10	44
		d	11	21	5	45
ニシキヅタ		d			31	69
		e	58	42		
テイカカズラ (大)		a	45	27	67	19
		b	35	42	56	37
ムベ	c	a	0	91		
		b	0	96		
		砂			0	94
		赤土			34	66
ハスノハカズラ	c	砂	39	0		
		赤土			56	17

表一 2 春播試験中間調査結果 (活着率)

挿床	樹種	(a)処理	水処理	樹種	(a)処理	水処理	
c	ツタ	砂	48	72	フユツダ	32	22
		赤土	36	42		8	32
		ピート	56	56		16	12
		d	20	70		20	18
c	テイカカズラ	砂	22	28	イタビカズラ	22	53
		赤土	12	54		8	74
		ピート	30	28		34	44
		d	0	38		0	38
c	サネカズラ	砂	82	14	オオイタビ	40	70
		赤土	80	66		58	74
		ピート	10	4		0	10
		d	42	66		10	24
c	ハスノハカズラ	砂	11	29	ヒメイタビ	0	14
		赤土	27	60		10	26
		ピート	10	40		0	4
		d	0	33		0	18
c	ニシキヅタ	砂	43	57	ヤブガラシ	20	43
		赤土	80	67		7	63
		ピート	80	57		0	47
		d	33	33		3	10
c	ミツバアケビ	砂	3	13	キダチニンドウ	80	65
		赤土	3	37		70	100
		ピート	0	0		4	0
		d	0	10		0	0
c	ツルニチリンソウ	砂	43	87	フウトウカズラ	86	—
		赤土	73	73		44	73
		ピート	60	43		66	68
		d	7	50		48	72

※ (a)処理：インドールらく酸処理